

■地域の価値を高める拠点づくり・場所づくりの事例

- 株式会社スノーピークの取り組み
- HOTEL NUPUKA
- えにあす

■地域の支え合いによる新たな地域公共交通に係る事例

- 淡路市長沢地区における取り組み
- 佐賀県伊万里市東山代町における取り組み
- 「なかとんべつライドシェア実証実験」の取り組み

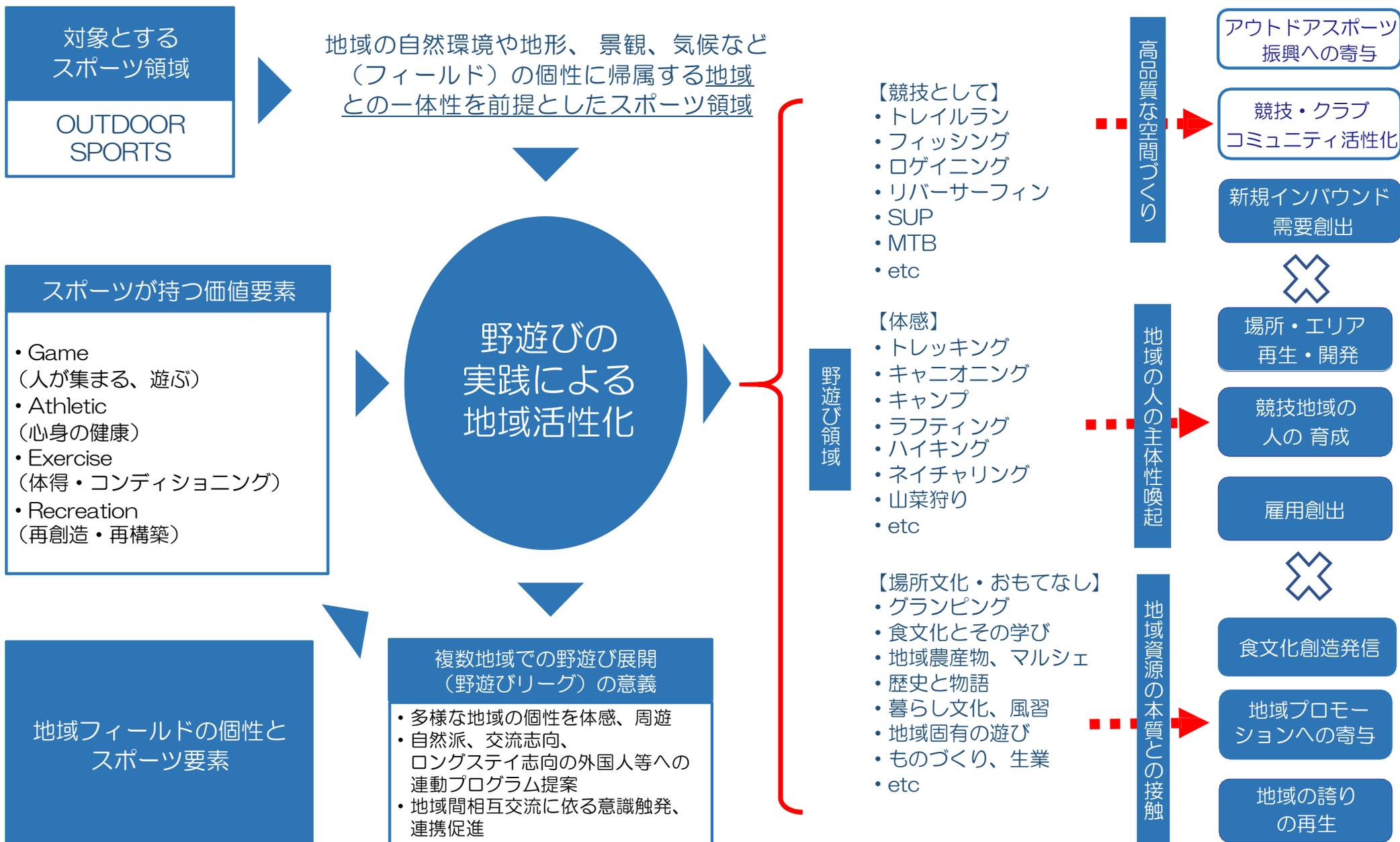
“人生に、野遊びを。” 株式会社スノーピークの取り組み



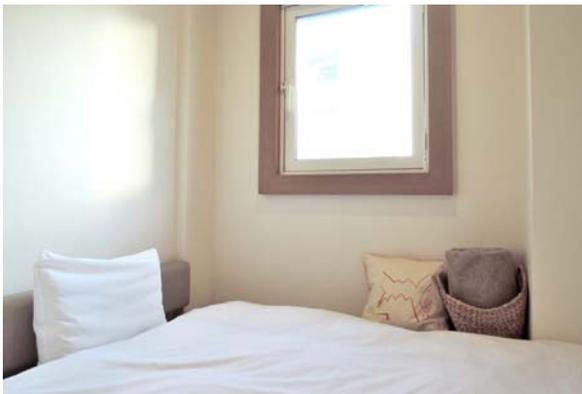
- ◆ スノーピークは、登山、キャンプ、グランピングのギア販売とプログラム提供を通して、地域の自然を楽しむ事業に取り組んできました。そのノウハウを活用し、地域経済活性化の課題解決の具体的なアクションを「野遊び」を軸に、地域と一体となり、楽しみながら推進しています。
- ◆ 十勝ポロシリキャンプフィールドを含め、全国4箇所で自治体と連携してキャンプフィールドを運営。
- ◆ さらに子会社として「株式会社スノーピーク地方創生コンサルディング」を設立。アウトドアを軸とした地方創生にも関わっています。
- ◆ 十勝では2017年2月にグランピングのモニタープログラムを開催。「グランピング」とはグラマラス（魅惑的）とキャンピングをあわせた造語で、グレードの高い設備や食事などで、従来のキャンプにはなかった価値を体験できるキャンプとして注目されています。
- ◆ 真冬の静かな空間と、真っ白な雪と広い空がどこまでも続く景色を楽しんでもらい、十勝の食材を使って地元の料理人がフルコースディナーを提供しました。また、十勝エリアの自然やアクティビティを体験するツアーとして、パッケージで提案しました。



スノーピーク 「スポーツ」 + 「野遊び」 による地域活性化構図



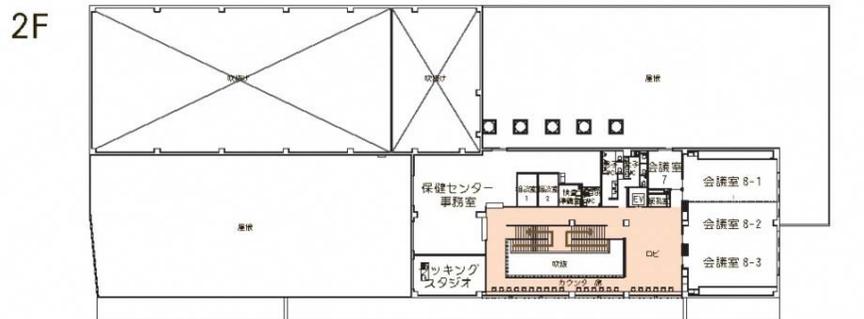
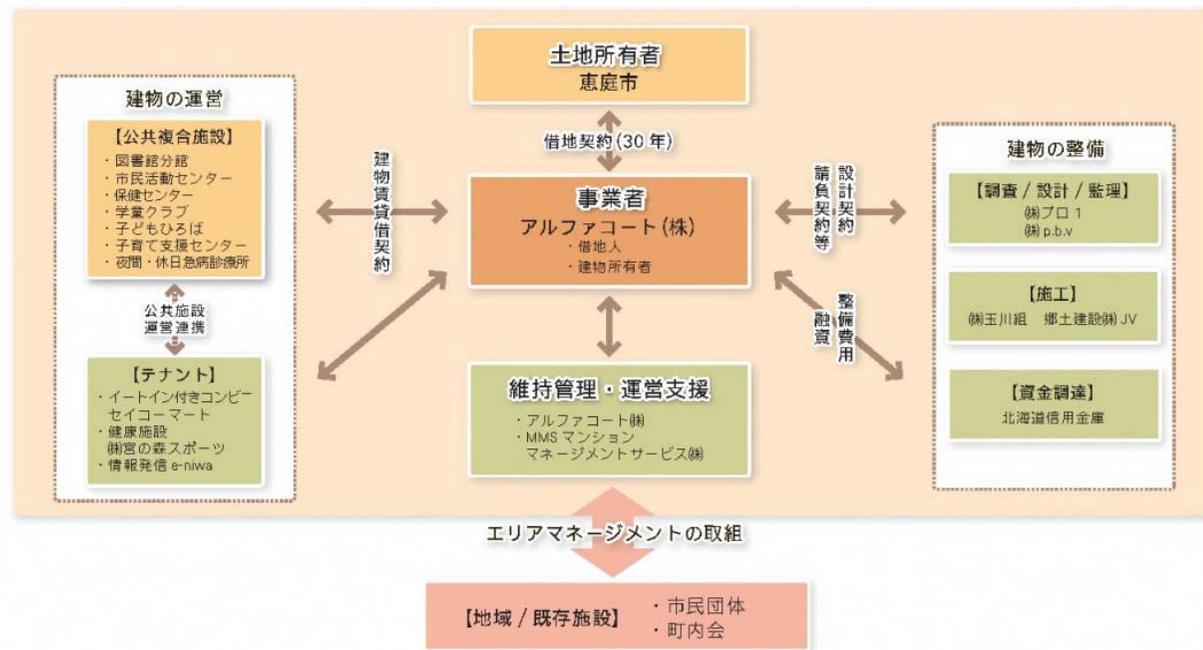
HOTEL NUPUKA（帯広市 ホテル ヌプカ）



- ◆東京のレストランに月に1度集まる十勝出身者たちが、十勝の魅力を世界に発信したいという思いから、H27年にクラウドファンディングにより短編映画を作成。十勝を舞台に、台湾人気女優を主人公にした「マイ・リトル・ガイドブック」という作品。
- ◆映画を見て十勝に行きたくなった人をもてなし新たな人の流れをつくるため、HOTEL NUPUKA（ホテルヌプカ）を計画。
- ◆街を1つの宿に見立てて泊まる場所、お風呂に入る場所など街ぐるみで宿泊客をもてなし、まちなかに周遊させる流れを創出する、いわゆる「まちやど」の考え方を取り入れています。
- ◆帯広市中心部の廃業したホテルの土地・建物を譲り受けリノベーション、H28年3月完成。
- ◆1階ロビーにカフェ&バーがありホテルのゲストだけでなく地元の人でも利用でき、イベントも随時開催。
- ◆客室はシングル、ダブル、ドミトリーの3タイプでコンパクトでありながら快適に滞在できる空間を確保しています。
- ◆帯広市には世界各国から観光客が訪れており、訪日外国人観光入込客延数は、H21年の3,091人でしたが、H29年には、22,787人と大幅に増加しています。
（資料：北海道 十勝管内観光入込客数）

地域の価値を高める拠点づくり・場所づくりの事例

えにあす (恵庭市 複合施設)



◆ 恵庭市では、公共の機能と民間の機能を有する「アルファコート緑と語らいの広場複合施設（通称えにあす）」をリース方式にて整備をおこなっています。

◆ 「えにあす」は、健康・交流・知育創造の3つの要素をテーマにしています。

【土地所有者】 恵庭市（事業用定期借地権設定契約により30年間の貸借）

【建物所有者】 アルファコート株式会社

【構造】 鉄骨造地上2階

【延床面積】 約3,700㎡

【駐車場】 約120台

【駐輪場】 約100台

【公共機能】 面積約2,400㎡

◎市民活動センター ◎保健センター ◎夜間・休日急病診療所

◎図書館恵庭分館 ◎学童クラブ ◎子どもひろば ◎子育て支援センター

【民間機能】 面積約1,300㎡

◎宮の森スポーツクラブ ◎セイコーマート ◎地域FM放送e-niwa

(資料：恵庭市ホームページ)

地域の支え合いによる新たな地域公共交通に係る事例

1. 淡路市長沢地区における取り組み

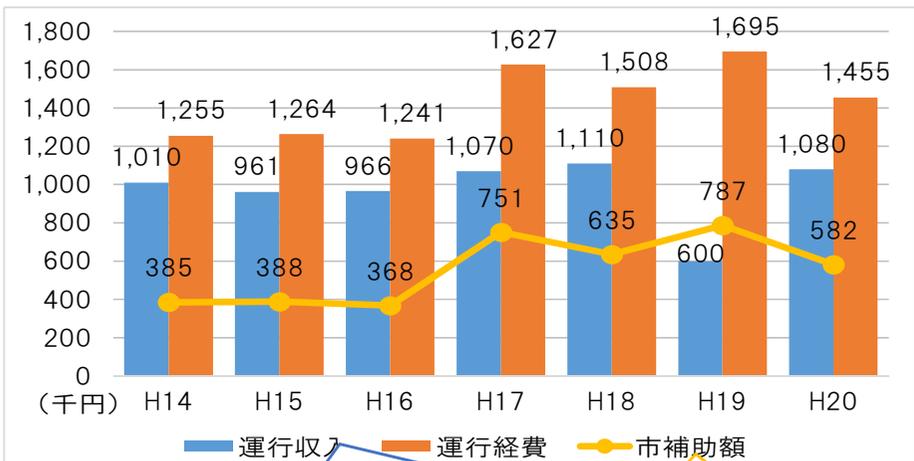
(1) 概要

- 【名称】長沢ミニバス
- 【実施主体】長沢ミニバス運行委員会
- 【運行管理】〃
- 【料金】無料

行政が運行委員会に委託する形式で運行

(2) 取組内容

- 運行経路やバス停の位置、時刻表の策定等の計画から、運転手の確保や負担金の徴収等の**運行管理の全てにおいて長沢ミニバス運行委員会が実施**
- 平成21年度よりスクールバスとしての運行も行うようになったが、一般混乗が可能となっており、一般利用者は**年間約5,000人**となっている。



- バス利用状況に関係なく、当該地域住民から1世帯あたり年1万円を全世帯から徴収 ※約1/3がコミバス非利用世帯

- 車検費、燃料費、強制保険料、修繕費等を助成

費用面以外のサポート

車両の貸与、道路運送法の許可等の対応を行っている



H20.12撮影

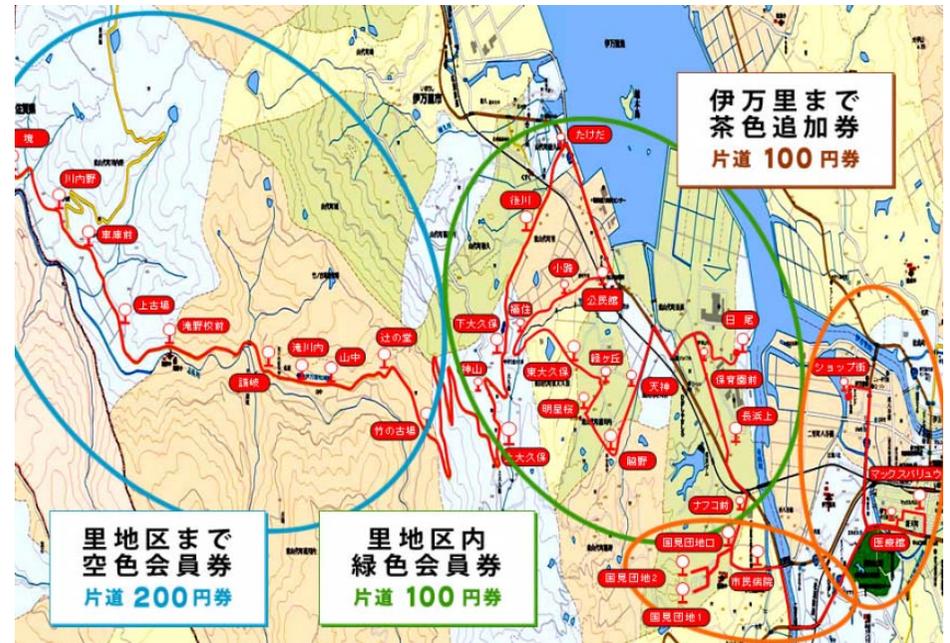
2. 佐賀県伊万里市東山代町における取り組み

(1) 概要

- 【名称】元気バス
- 【実施主体】元気バス協議会
- 【運行管理】肥前観光（貸切バス事業者）
- 【料金】利用区間に応じて変動（片道100円～300円の会員券）
※会員券は10枚綴りのものを事前購入

(2) 取組内容

- 会員券を購入した人のみ元気バスに乗車可能
- 運行日は火・木・金の週3日（祝日を除く）



平成29年度 元気バス実績(人数・実績)

月	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便	学	計(人)	日数	便数	1日平均乗車人数	収入額
29/4月			185	111	93	109	41	120		659	12	72	54	125,300
5月			213	133	83	99	37	94		659	12	72	54	118,100
6月			245	149	106	121	38	111		770	14	84	55	136,300
7月			206	139	87	114	22	92		660	12	72	55	116,100
8月			227	145	82	87	36	84		661	13	78	50	120,900
9月			205	140	77	104	38	106		670	13	78	51	114,700
10月			246	155	91	129	24	107		752	13	78	57	131,800
11月			209	146	91	113	29	99		687	11	66	62	116,300
12月			199	117	98	102	37	94		647	13	78	49	117,800
30/1月			137	84	87	65	26	65		464	12	72	38	82,000
2月			196	104	90	93	27	57		567	12	72	47	98,100
3月			226	154	122	122	31	82		737	14	84	52	128,000
計	0	0	2,494	1,577	1,107	1,258	386	1,111	0	7,933	151	906	52	1,405,400

地域の支え合いによる新たな地域公共交通に係る事例

3. 「なかとんべつライドシェア実証実験」の取組

(1) 概要

- 【名称】 なかとんべつライドシェア
- 【実施主体】 中頓別町、シェアリング研究協議会
- 【運行管理】 中頓別町
- 【料金】 ガソリン代、プラットフォームの維持に必要な費用を料金体系を設定のうえ収受

(2) 取組内容

- ・ボランティア町民ドライバーの自家用車を利用したライドシェアの実証実験
- ・総合戦略の具体的な施策推進の取組みとして平成28年度より実施。
- ・「シェアリング研究協議会」を町民、町内交通事業者、自治会連合会、学識経験者などで組織し、協議を継続しながら推進。

- ・「Uber」の配車アプリもしくは専用ダイヤルへの電話により利用を予約。
- ・ボランティア・ドライバーは、15名ほど参画いただいています。町の「交通グループ会議メンバー」に所属していただき、自動車学校での安全運転講習の受講や、安全マップへの協力も予定しています。



- ・このような町民ボランティア参画の取組みを、将来的には交通以外も含めた社会資源の活用、共助のしくみづくりにもつなげることを想定しています。

ご利用料金体系

1	基本料金 (ご利用1回あたり)	ご利用1回あたり 156円
2	距離料金 (時速10km以上の時)	走行1kmあたり 42円
3	時間料金 (時速10km未満の時)	1分あたり 5円

※上記金額には、ドライバーへ支払われる燃料費(帰路分を含む)の他、UBER社へ支払われる手数料が含まれます。

ご利用料金目安

区間	距離(km)	料金(目安)
役場～寿公園	2.5	¥260
役場～ピンネシリ温泉	14.6	¥770
役場～浜頓別バスターミナル	20.3	¥1,010
役場～小頓別	25.6	¥1,230
役場～音威子府駅	40.5	¥1,860

※ルート・交通状況により変動します。



有志のボランティアドライバーのみなさん



なかとんべつ ライドシェア(相乗り) 実証実験

Q1 「ライドシェア」とは？

個人の一般の自家用車に「相乗り」して目的地まで移動することを言います。日本ではあまり普及していませんが、人口減少地域・小規模自治体での住民・来訪者の足として期待されています。



Q2 なかとんべつライドシェア(相乗り)実証実験とは？

住民や来訪者の交通の不便を、自家用車の「相乗り」により解決することを試みる実証実験です。町民の皆さまの移動の足の確保を目指すだけでなく、地域のつながりの活性化も目指します。

運用のしくみ

なかとんべつライドシェア(相乗り)実証実験では、即時配車サービスなどを提供するUber Japan 株式会社との協力の下に、スマートフォンのアプリケーションを活用したシステムを用いて、自由自在な交通手段の可能性を検証します。

1 車を呼びたい方は、

(1) スマホアプリから呼ぶ。

- ① スマートフォンやタブレットを用意します。
- ② ウーバー(Uber)アプリをインストールします。
- ③ アプリから簡単な操作で配車の手配は完了です。

利用時間 365日 8:00頃～24:00頃を予定(ただし、場合によっては配車できないこともございます。)

(2) 役場に連絡をして呼んでもらう。

ライドシェア配車受付専用ダイヤル

- にご連絡下さい。
- ※アプリのインストール方法がわからない方も、こちらへお電話下さい。

2

乗車の依頼がご依頼人の1番近くにいるドライバーさんに届きます。マッチングしたらドライバーさんがマイカーでお迎えに行きます。

3

依頼人が乗車したら、あとは目的地に向かって発進!



ライドシェア配車受付専用ダイヤル

080-2867-4112

電話受付時間 9:00～17:00 |月-金|

※ 右のような場合は、配車成立後、アプリからドライバーに電話を掛けてご相談ください。

目的地にて短時間の用事を済ませた後、復路の乗車も同じドライバーにお願いしたい場合。

● 町外まで乗車したい場合。

詳細・お問合せ
お申込み先

〒098-5595 北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172-6

Mail: kikaku@town.nakatombetsu.lg.jp

TEL (01634) -6-1111 FAX (01634) -6-1155

URL <http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp/docs/2016081800017/> 中頓別町役場 総務課政策経営室

資料: 中頓別町ホームページ